



The Y's MEN's CLUB of



もりおか



<VOL110.2017.2>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内  
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長 Joan Wilson  
アジア地域会長 Tung Ming Hsiao  
東日本区理事 利根川 恵子  
北東部長 長岡 正彦  
もりおかクラブ会長 井上 修三

「私たちの未来は、今日より始まる」  
「ワイズ運動を尊重しよう」  
「明日に向かって、今日動こう」  
「明日のために、いま土台を築こう」  
「2017チャリティラン in 盛岡を成功させよう」

今月の聖句 マタイによる福音書18章1～5節

 「私の名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、私を受け入れるのである。」

会長 井上 修三  
副会長 三田 庸平  
書記 濱塚 有史  
会計 大関 靖二  
担当主事 小川 嘉文  
メネット 井上 優子

3月例会のご案内

日時 平成29年3月10日(第2金曜日) 18時30分  
場所 きのえね本店 会費2,000円  
卓話 根内 純 様 入会式  
第二例会 3月17日(金) 18時より  
場所

井上会長巻頭挨拶



井上会長

北国住人にとっては一番心弾む時期となり、雪不足の暖かい冬で終わるのかと思いきや一夜(一日)にして雪景色となるゲリラ降雪。この冬ひたすら雪かきをしてきた私の勝利も目前で敗北に終わり、おまけに風邪をひいたのは雪かき後の汗の始末をちゃんとしなかったと、まわりからお叱りを受けること

に。(いいさ、今はひたすら言わせておこう。いずれ、結果がでるのだから。我慢！我慢！我慢！)なかなか立ち上がる材料のないところに嬉しいニュースがありました。納豆の話です。皆さんになじみの深い納豆ですが、某クラブの自称納豆研究家メンバーがおられ、花巻への旅行でルーツを確認することになったとのこと。在仙のころは、「近代納豆のルーツは盛岡高等農林学校の松村博士が始まりだと…」文にある「村松博士製法」納豆を食していましたが、岩手に移り住んでから「有限会社大内商店」の納豆に行き着くまで数年を要しました。何の知識も持たずひたすら舌で確認しながらのこと

でした。あの時お取り寄せで済ませていたら探求心もそこで終わっていたことでしょう。現在岩手に魅力を覚え、岩手日報を愛読して下さる西のメンバーもおり(閉鎖する前のマルカンデパート食堂で食事もされたとのこと)本当に少しずつですが、興味を示して下さる方も増えております。岩手に住んで19年になり、晩稲の私は数が少ないながら岩手にいらした方におすすめる場所もあり、ここ岩手は第3のふるさとになるのかな、などとひとり悦んでおります。(どこからか、まだまだと言う声が聞こえそうです。)

もりおかクラブ新年2月定例会の報告

2017年2月11日(土)、きのえね本店で開催。出席者、井上、井上優子、大関、長岡、濱塚、山口、小川、継承略。ゲスト、岡田幸助 様(岩手大学名誉教授、青山町教会員)、高館 千枝子様(唐丹希望基金2020プロデューサー)、魚住 英昭 様(盛岡YMCA 理事長)、鬼柳 琴(マックリーダー)、伊藤 陸(シヨッカーリーダー)5名のゲストを迎えての定例会でした。

ゲストの岡田様、高館様はワイズソングが讚美歌にあるとのこと、歌詞を見ながら大きな声で斉唱していただきました。



岡田 幸助さま



高館 千枝子さま

お二人は映画、岩手「クワイ川に虹を架けた男」上映会実行委員会をしており、岡田様が実行委員長、高館様が事務局という立場で、映画のご紹介と上映会への参加を促すためにゲストとして来ていただきました。戦時中の旧日本軍はタイとビルマを結ぶ鉄道を作りました。連合国の捕虜6万人と25万人以上の現地アジア人で作った鉄道です。死の鉄道と呼ばれ病気や事故で多くの犠牲者をだしました。当時イギリスは完成までに10年かかるとしていましたが、日本軍は1年4か月で作りあげました。想像を絶する過酷な労働を強いたのでした。永瀬隆さんは、戦後この事実を知り妻の佳子さんと135回タイを訪問、1976年にクワイ河鉄橋で元捕虜と旧日本軍関係者の和解事業を成功させ、旧連合軍でもその名を知られる存在となりました。復員する日本軍に対するタイ政府の食料援助に恩返しするための、ク

ワイ河平和基金を設立、学生に奨学金を送り続けました。

この映画を滝沢市の「ビッグルーフ滝沢」において「3月18日(土)13時より上映を行います。入場料1000円です。お運びください。卓話、魚住様、家庭裁判所の調査官についてお話しいただきました。卓話はこのあと特集しております。お楽しみに。芦屋クラブさまと、岩国みなみクラブさまからもらったチョコレートとお饅頭をみんなで分けて食べました。ありがとうございます。お酒も、お菓子も大好きなもりおかクラブのメンバーです。



2月定例会集合写真、岡田さん、高館さん、マック、ありがとうございました。

## 2月定例会卓話「家庭裁判所調査官の仕事」

盛岡YMCA理事長 魚住 英昭 様



魚住 英昭 様

今晩は、数か月前から盛岡YMCAの理事長をつとめている魚住と申します。息子が2人いて、スコレ幼稚園、小学校からYMCAのキャンプに参加させてスキーを覚えました。私のワイズへの初参加はゲストで昨年12月のクリスマス会でした。リーダーがたくさんいて、広い会場でしたので今日は声を通る心配していましたが、ここが本来の姿なのでしょう安心しました。

今日は私の仕事の話させていただきます。家庭裁判所の調査官を1976年から続けてきました。60歳で管理職を定年し、その後本来の調査官を今も続けています。家庭裁判所には標語があります。「家庭に光を、少年に愛を」をモットーにして来ています。家庭裁判所で扱う分野は2つあります。家事事件と少年事件です。家事事件は離婚、養子縁組、相続、戸籍関係、青年後見などです。少年事件は、少年の非行、障害事件、殺人などの少年審判を扱います。裁判所の一角ですから、法律の適用を受けませんが、家庭裁判所は法律だけでは割り切れない、人間関係、家族関係、少年の心の問題という要素が大きいのです。裁判所には裁判官や書記官がいますが、家庭裁判所には調査官という職種が置かれています。心の問題や、人間関係を専門に扱うという観点からです。これが家庭裁判所の調査官です。長い調査官の仕事の中で、時代と共に扱う内容が変化してきています。はじめは、少年非行が多くありました。調査官の7割は少年非行の担当でした。これが、少子化の流れの中で逆転しました。今は、家事事件が7割、少年非行が3割です。子供の数が少なくなってきた、事件の質が変化しています。昔は車が欲しい、バイクが欲しい、物が欲しいから万引きをする、今はものが豊富にありますから物欲は減ってきました。興味は携帯やスマホ等に代わってきて粗暴系の非行は少なくなってきました。元気な非

行少年から、陰湿な非行少年に変わってきています。調査官が関わっている事として、離婚に伴う子供の問題、親権の争いです。離婚後の子供との接触拒否、子供にとってより良い解決策を考えます。次に、青年後見です。2002に、認知症や精神障害などで判断能力を失った方への支援制度として発足しました。日本文化の中に欧米の制度を導入したため、問題が起きています。日本では、家の財産であるという考えかたから、親が倒れたら子供が財産を相続して管理して、親族による横領、流用が多いです。裁判所が選んだ後見人がこっそり横領していたという事例があり、意思の尊重どころか財産の保全が難しい状況です。事件が起きると、調査官も対応にあたります。これは本来の調査官の仕事かどうかという問題があります。3つ目は、少年審判のための調査、教育的働きかけがあります。少年非行のお話をします。調査官の調査は、少年や家族と面接したり、家庭訪問したり、学校訪問したりします。非行の原因、立ち直りに必要な事などをまとめて裁判官に報告する。裁判所が審判に必要な情報を得るという事だけではなく、非行までの少年と家族に振り返りを促すような面接をします。審判は単に裁きの場ではなく、それ自体が教育の場となるように、コーディネートするということになります。私たちは、少年の更生や立ち直りをデザインするデザイナーであると考えております。保護観察や少年院送致なども含めて、少年に最適な教育の場を与えるデザイナーです。保護観察や少年院送致は約2〜3割、処分無しまた審判を開かない事がほとんどです。一般の方々是非行少年に対して家庭裁判所はなにもしていないと誤解しています。しかしそういう場合でも教育的働きかけはきちんと行っているのです。少年法の理念を支える考え方としてプロベーションというものがあります。判決猶予です、どのような判決がでるか分からない緊張感の中で働きかけを行うと効果が出るという事です。総称して教育的処置といっています。酔って小学校のプールで泳ぎ勢いあまって施設を破壊してしまった、ごみの分別が解らず集積場所にごみを出さず、近くの資材置き場に継続して捨てた。等の事件では、少年の良いところをほめて、審判までの間にごみステーションの掃除をし

てもら、老人施設で介助の手伝いをする等の社会貢献を体験させてレポートを提出させて審判を受けるなどの指導を行っている

いう良い機会になっています。少年が正しく更生していく事が家庭裁判所、私たち調査官の使命なのです。

## 第2回東西日本区交流会開催



第2回東西日本区交流大会に参加してきました。井上会長、大関さん、長岡の3名です。井上優子さんは体調不良のため急遽欠席となりました。2月4日、5日東山荘で開催され、東西のワイズ370名が集いました。田中さんを先頭に企画運営していただいた実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。多彩なプログラムと交流でまたワイズの絆が深まったのを実感いたしました。東日本大震災や熊本地震の活動報告で、最後に極限状態でも理性を失わない日本人を紹介したビデオを見たとき、6年前の事が昨日の事のように思い出され、感極まりました。交流会では、芦屋クラブの桑野さん、岩国みなみクラブの高瀬さん、佐竹

さん、皆様と楽しい時間を過ごさせていただきました。3名のもりおかクラブの面々も大いに盛り上がったのでした。2日目の講演、「ワイズとYMCA、今後の期待」と題して。前アジア・太平洋同盟総主事 山田公平さんのお話を伺いました。ワイズメンとして、単に行事に参加しているだけの私は、ほほを殴られたようなインパクトを感じました。誇り高くこれから活動していかなくちゃなりませんね。山田さんの講演を特集しました。この後です。



370名参加、全員の集合写真は迫力、3人はどこだ？

## 東西交流会講演

### 「ワイズとYMCA、今後への期待」

前アジア・太平洋MCA同盟主事 山田公平様



山田 公平 様

こんにちは、宇都宮クラブ所属の山田公平と申します。アジアを中心に活動してきました、そんな中で、YMCAとワイズメンズクラブの関係を築きたいと考えています。アジア太平洋地域には韓国エリア、インドエリア、パシフィックエリアがあります。この3つのエリア会長をお呼びして今後のYとワイズの間を強い

ものにしようという覚書を交換しました。2013の春のことでした。よかったと皆さん言ってくれましたが、その後何も起きておりません。トップがこれで行こうと言っても国や個別のYやワイズには何も伝わっておりません。トップダウン方式がうまくいっていません。また、いろんなYMCAを訪ねて、ワイズになぜ入らないのと聞くと、「知りません」、「やって何になるの」、と言います。「意味がない」という方もいました。ワイズの本部においてアジア太平洋でやったように関係を取り戻すイレーションオフィサーになって欲しいと依頼されました。今までやって来たことでしたので、昨年7月期からワイズ側からのアプローチでイレーションオフィサーになりました。昨年世界大会常議委員会などを通じて、アフリカ、ヨーロッパ、南米、北米、各地の総主事と会い個別に私の役割を説明し、「どうでしょう」と問いかけてきました。

しかし現実はとても厳しいものがありました。Yとワイズにはコミュニケーションができていない、あっても意見がくいちがう。YMCAがワイズに「こっちを支援して下さい。」といっても、ワイズはYMCAを向かず別のサービスを行っている。「YMCAは独自に活動していてワイズの援助は必要ない。」と言い切ります。YMCA側もワイズは「勝手に活動していると言います。」2022年のワイズメンズクラブの100周年までにYMCAとワイズメンズクラブ。これは、非行事件を起こした少年が自分の価値に気づくと

の関係を強いものにして行こうという計画を作りましょう、そして動き出そうとしています。この日本で成功事例を作り、取り組みや工夫でYとワイズが緊密になっていったという形が私の希望であります。次に事例を元にオーストラリア、タイ、香港で具体的に取り組んでみたいと思っております。そこが出来れば、韓国、インド、アフリカ、ヨーロッパにも進めて行きたい。これに応じるYMCAとワイズメンズクラブが「ああ、やってよかった。」と思うことを2022年までに多くの地域で実現したいと思っております。昨年8月のアジア地域大会でYとワイズの間を、一昨日の夜、東西ワイズメンズとYMCAから伺ったお話も紹介いたします。世界のワイズメンは約3万人、その7割がアジアにいます。その他の地域は人数を減らしています。アジアがワイズの中心です。可能性はアジアが一番あります。国際大会のワークショップで、3つの質問をしました、「良い事例はなんですか。」「パートナーシップの共通する問題点はなんですか。」「今後なにがされるべきか。」という問いかけでした。良い事例は、YMCAの地域活動にワイズが応援してくれている。ASFファンドを利用してYMCAのスタッフを研修に派遣している。YMCAのユースプログラムを共同で行っている。しかしここには「ワイズが行っているユース事業の資金をYMCAで行えばもっと良いことが出来るのに、応援してくれないのですか。」「私たちは独自で行います。」というメッセージがYMCAから届いているのです。ワイズからの支援があっても、YMCAがそれを知らない、無視する、あまり感謝していない。担当主事が目まぐるしく替わり、関係が構築できた頃にはいなくなる。YMCAのキーパーソンになる役員や会員がワイズに居なくなっている。YMCAにはワイズが応援したくなるプログラムが無い。今後への工夫として、Yとワイズが何を一緒にできるか白紙に戻って「地域奉仕やユース事業と一緒にやりましょう。」という合意が必要です。地域にこう言う問題があるから取り組みを考えましょう。というプロセスが必要です。また、チェンジエージングが必要です。ユースを卒業した若い人材を

ワイズがさらに応援していこう。担当主事、連絡主事の間係を長く維持する、YMCAを動かせるような中堅以上のスタッフをワイズに取り込み活動していく。そうすれば、ワイズの内側からワイズを変えられます。関係を考える上の視点として、YMCAがワイズに応援してもらっている意識が薄い。ワイズが何をしているか知らないYMCA。コミュニケーション不足のさいたるものです。ワイズとYMCAのリーダーが双方の意識を分かち合う場が必要です、意図的に作らなければなりません。YMCAの中にワイズが関心を持って応援したくなるような活動がありますか。これが無いとワイズは応援しません。提案としては、区で合意しても何もならない、部で合意してYMCAと一緒に活動する。東京ではワイズと話し合って活動を決定していく。頻繁に行い意味がある活動が必要です。YMCAは受託事業が多くなっています、信用を勝ち取りました。しかし、委託事業は規則が厳しくてスタッフに余裕がありません、そこへワイズが来て意見などを言うと、「もういいです。」となっています、これが実態です。これでいいのかという気持ちはありますが理解しながら、それでもやれることを一緒に考えていこうという姿勢は必要です。2020年までに、一歩ずつ歩みを進めていきたいです。区レベルでは同盟と協力してTOF事業を提案す

る、ミャンマー、カンボジア、YMCAとワイズと一緒にいって合同で支援する。部レベルでは、部内にあるYMCAと合同でワークキャンプに派遣する。1YMCAではできないことを支援する。ローカルYMCAと個別のワイズレベルでは、新しい地域事業を生み出す、何があるかを話し合う事から始める。今回の絶好の機会です。話し合われた一部をご紹介します。YMCAの活動を応援するのがワイズの喜びであり、魅力になります。YMCAの理解を深める機会を意図的につくるのが大切です。YMCAの会員活動があります、何かをしたくて集まって来た人達この人たちが会員運動としてのコアなのです。YMCAは事業が忙しくなって、会員活動が少なくなっているのが現実です。YMCAは考えるべきです。この分野へワイズが力を入れるべき事柄でしょう。特別委員会を立ち上げたいと考えております。東西ワイズとYMCAとの関係を緊密にするための委員会です。提案したばかりで実現するかはまだわかりません。YMCAの総主事会議などでワイズとの関係うんぬんは話し合われたことはありません。この特別委員会を実現するためにはYMCAがキャスティングボードを握っています。年に2回会議を開いて、計画の作成実施状況の見守り、必要なアクションを起こして行きます。この日本の取り組みをアジアへ、世界へ発信していくのが狙いです。

# 「フイテン盛岡DAON」

## もりおかクラブの状況報告

2月の出席率	7/11	63 %	ゲスト 12名	ビジター1名	メネット 1名				
メーキャップ	1	名		12月切手	15	g	累計	530	g
2月のにこにこ	11,000	円	累計 11,000 円	12月プルタブ	0	g	累計	4,670	g
2月 石鹸	2,000	円	累計 2,563 円	りんご	3,000	円	累計		円
2月震災募金	0	円	累計 0 円	ファンド合計	0	円			

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

2月のハッピーバースディ 全国のワイズメン、ウィメンの方々、お誕生日おめでとうございます。

## 小田原城に行ってきました。



小田原城に行ってきました。4日の午前中、東西交流会の前です。御殿場から箱根の峠を越えて小田原まで、往復50Kmのドライブでした、途中の川沿いの桜が開花していま

して、人生初めての2月のお花見を堪能しました。お城の庭の桜もさいておりました、天気が良くてぽかぽか陽気の中の散策でした。北条氏の小田原城では天守閣まで登り、豊臣秀吉の一夜城は何処にできたの？あそこの丘のですよとの案内に、そうですか、たしかにあそこに出城を築かれては、たまったものではないですね。ろう城戦では、長く戦えても勝ち目がなかったのですよ、う。頼みの伊達政宗までも敵方についてしまったのですから、



小田原城入城記念



摩利支天像

無念だったでしょう。戦国時代の有名な出来事のその場所に身を置いているというのが何か不思議な感覚

でした。ガラスケースの中の摩利支天像を見てきました、武士の中であつく信仰されていた像でイノシシに乗り、3つの顔と、6本の腕があります。小田原城のおたからです。



城内お庭の桜の花です。

## 東日本大震災から間もなく6年、アーカイブ 陸前高田市の奇跡一本松は今、2012年3月に掲載



頑張った一本松

空高く伸びた一本の松を山の稜線から姿を見せた朝日が照らす。東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市の景勝地「高田松原」で津波に耐えた「奇跡の一本松」。7万本の中で唯一、生き残った松は、復興のシンボルとして被災地だけでなく、全国にも希望と勇気を与えてきました。同市内では一本松のTシャツやキーホルダー、お菓子なども販売され、経済活動再開にも一役買ってきました。しかし、津波で海水をかぶり漂流物で傷つき“満身創痍”の一本松を待っていたのは地盤沈下による海水の冠水と、仲間を失ったため直射日光を過剰に浴びる過酷な環境だったようです。復興の象徴を守ろうと、地元の「高田松原を守る会」や財団法人の「日本緑化センター」などが保護活動を展開。高潮時に海水が根元に入らないよう周囲に堤防を施したり、直射日光や潮風を防ぐネットを巻くなどしてきました。7月には新芽や緑葉が伸びたことを確認。しかし、猛暑が過ぎた9月には新芽が変色するなどして衰弱、10月には樹木にとっては命取りの根腐れが判明しました。日本緑化センターは今年13日、「蘇生は絶望的な状況」と発表。守る会の鈴木善久会長(66)は「市民に希望と勇気をくれたのに…。悲しく残念」と肩を落としました。しかし一方で、技術を駆使して一本松の“子供たち”を育てる活動も動き出し、14日には東京都内で関係者が会見。一本松の接ぎ木から3本のクローン苗を、枝に残った松ぼっくりから採取した種子から18本の苗をそれぞれ育てることに成功したと発表。「希望の光をつなぐことができた」と胸を張りました。後継となる木の育成に一定のめどが立ち、関係者の表情も明るく、鈴木会長は「『ありがとう』と一本松をねぎらいたい。育った苗から高田松原の再生を目指すことが一番の恩返しになる」と力を込めています。なぜこの松だけが流されずに

残ったのでしょうか？ この松の海側にユースホステルがありました。盛岡YMCAが春と夏に何回もサッカーキャンプの宿舎に



一本松の盾になったユースホステル

利用してきた施設です。ユースホステルは壊滅的な被害をうけましたが、せめて一本だけでも松を残そうと津波の盾になったのでしょうか。

偶然とはいえ、何かを感じます。仲間の松7万本は流木となって市内に流れつきました。この松を使っていろいろな事が企画されましたが、放射能の影響を恐れた人々が搬入を断ったためにほとんど利用されず、焼却処分が始まっています。放射能は自然界に普通に存在しているものですから、放射線量を測るのではなく、放射性セシウムがあるか測定してほしいものです。

陸前高田市も長岡にとっては思い入れが多い場所です。春と夏にYMCAの子供たちがキャンプに来るのを楽しみにしていました。差し入れを持って訪問するのが年中行事になっていましたし、45号線沿いには、行きつけのレストランもありました。みごとに何にも無くなってしまいました。陸前高田市は行政施設のほとんどが無くなり、復興に困難を極めています。立ちあがった人たちも、津波再襲来に怯えています。気仙川の防波堤の再建が絶対必要です。それまで津波が来ない事を祈るばかりです。



高田松原の松です。思いを込めて何かに使って欲しいのです。

奇跡の一本松は、現在オブジェとして再生されて、震災記念公園の一角になるため、保存されました。震災記念公園は4年後に完成の見込みです。ユースホステルの建物は現在ありません。

### 体験農場総仕上げ、第10回蕎麦打ち体験！

今年もやってきました、第十回体験農場蕎麦打ち試食会です。大関ご夫妻の指導の基に、わいわいがやがや、実に楽しい蕎麦打ち体験でした。井上会長は風邪をひいて欠席でしたが、お祝いのケーキを差し入れてくれました。もりおかクラブ発足当時から始めた体験農場も10回目なのですね、恒例行事というものは、月日の流れを感じないものなののでしょうか。リーダーたち7名が参加してくれました、全員初体験です。千葉ワイズも初参加、蕎麦打ちは経験有との事でしたが、伸ばすときにいつも割れてしまい、切った時に麺になった事がないとおっしゃっていました。私も



水を入れて

こねる

こねあがり

胸にあてているのはどうして？



マック切ります。

千葉ワイズご満悦です。

写真を撮りながら、いつ割れるのか、いつ切れて分離するのかわくわくしながらひやかしていました。が、なんとすべての蕎麦が美しい麺になったではありませんか、大関さんご夫妻は、今回水加減を慎重に行い、



出来た～

試食開始、おいし～

ケーキのプレート、これはチョコ。

伸ばしても割れないように細心の注意をはらったとの事でした。リーダーのみんな、君たちがうまくやったのではないのだよ、



大関ご夫妻のおかげさ。長岡の差し入れの天ぷら、大関メネットの厚焼き玉子、蕎麦のおかずは最高でした。そして最後の差し入れのケーキです。お腹がいっぱいで、残った蕎麦やおかずを明日の朝食にと分けた後でしたが、ケーキとなればまだまだ入るのですね。この子たちのお腹はいったい、、、。今年の蕎麦打ち例会も大成功でした。



やった～大成功。次回に続きます。

### 「ひな祭り～名家に伝わるお雛様を愛でる～」

今年のひな祭りのご紹介は、盛岡歴史文化館です。「ひな祭り～名家に伝わるお雛様を愛でる～」と題して、3月5日まで開催しています。見てきました。メインの飾り雛は中村家の(糸治)のひな人形です。中村家の説明を少しします。



糸治、中村家のひな人形

中村家は、「糸屋」または「糸治」と呼ばれた城下町盛岡でも屈指の豪商家で、呉服・古着を中心に商っていた。建物はたびたび改築や修理がおこなわれたが、現在の主屋は文久元年(1861)に造られたものである。また土蔵は明治期の建築だが、主屋と機能的にも景観のうえからも切り離せないものとして同時

に国の重要文化財に指定された。130年余の歴史をもつ町家で白壁の土蔵は明治時代のものだが2階の木格子窓と1階庇廊下の格子戸の調和、それに右手端にある防火用「うだつ」がアクセントとなり美しい姿を見せている。中村家は屋号「糸治」と称し、呉服・古着を商い、明治になって紫紺染本舗として繁盛した。(1861)に造られたものである。また土蔵は明治期の建築だが、主屋と機能的にも景観のうえからも切り離せないものとして同時に国の重要文化財に指定された。130年余の歴史をもつ町家で白壁の土蔵は明治時代のものだが2階の木格子窓と1階庇廊下の格子戸の調和、それに右手端にある防火用「うだつ」がアクセントとなり美しい姿を見せている。中村家は屋号「糸治」と称し、呉服・古着を商い、明治になって紫紺染本舗として繁盛した。



お出迎へのひな飾り



七戸、南部家のひな段かざり。

### 編集後記

先月のプリテンのお詫びを兼ねて、今月は頑張りました。録音したソースの後援会や卓話が2本ありました、テープ起こしに時間をたっぷり費やしました。久々の6ページのプリテンに仕上がりました。2月25日、26日の栃木YMCAのリーダーズアクトの記事はさすがに今月には間に合いませんので来月回しです。ご了承ください。

振り返って、今年の冬は雪が遅く暖かかったです。1月中盤から普通の冬に突入しました。雪は終わってみれば例年くらいは積もりました。さあ、もうすぐ春がやってきます。なにかうきうきしますね。野山や町が、ペンキで色を塗るようにいろんな色に溢れだします。3月になります、震災から6年が経過します。力強い立ち直りの報道が増えてきました。そして、福島復興を心よりお祈りいたします。ではまた来月お会いしましょう。長岡。



東西交流会の懇親会です。



桑野さん飛び入り。



DBC、3クラブ再会



雪の華



御殿場パーキングより、富士山が迎えてくれました。



宵の口の半月です。



かさ雲の富士山天気は下り坂。